

第 57 回 岩殿山

第 5 支部 東邦化成(株)
常務理事 磯部 進
平成 24 年 6 月 3 日 曇り

6 月 3 日午前 8 時 57 分、中央線各駅停車で大月駅に到着した。雨上がりの曇天で、いかにも降りそうな天気だった。改札を出ると前事務局長の山本氏と丁子屋塗料の秦氏、私の後から原夫人が来られ、4 名が揃った。数日前に幹事の乾氏より当日が仕事になったため、欠席との連絡を貰っていた私は、いつもより念入りにルートを確認した上、パーソナルナビの電池もしっかりと充電し、当日に臨んだ。

日 時：2012 年 (H24) 6 月 3 日 (日)

目的地：岩殿山から天神山、稚児落とし

歩 程：3 時間 4 0 分

前日、若林氏より雨なら 3 人欠席しますとの連絡があった。JR 大月駅に着いた時、雨は止んでいたが、3 人は到着せず、4 人での出発となった。天気予報では昼からもっと悪くなる予想であったため、傘を手元に用意して駅前広場を左に折れ、商店街を歩き始めた。ほどなく、踏切を渡り、正面に岩殿山の岸壁を見て、桂川を渡る。

JR や中央道からも良く見えるこの大岸壁は、いかにも天然の城らしい威容を誇っている。車道に沿って登ると、左に岩殿城入口の表示があり、そこから車道を離れる。良く整備された歩道を 10 分程登ると丸山公園に着く。物見台や立派で無料の岩殿山ふるさと館があるが、時間の関係でパスすることとした。

ここでも展望は良く、上野原、河口湖、笹子方面と見晴しは良いが、富士山を含め、上の方は雲の中だ。小休止した後、つづら折りを登り、岩殿山の山頂を目指す。大きな岩の揚城戸（城門）直下の稚児落としへの分岐を見送り、山頂に向かう。南側展望台には乃木將軍の詩碑があり、そこから 7 分程で烽火台に到着する。ここには現代の烽火台であるアンテナが聳え立っている。

岩殿山の標高は 634m と丁度スカイツリーと同じ高さだが、アンテナを入れると岩殿山が高くなる。景色の見えない山頂から同じ道を稚児落としへの分岐まで戻り、大手門まで細い山道をかなり下って行く。イメージでは登った半分位は下ったという感じ。

下ったところは、築坂という場所で、空堀となっている。空堀と言うよりは峠と言う感じだ。そこから、急な登りと、ちょっとした鎖場を抜け、兜岩に到達する。

ここにも鎖場があり、ロッククライミング的に原夫人が軽々と登って行くのを、秦氏が心もとないホールドで必死に追い駆けるが、離されてしまう。

兜岩から30分程で天神山に到着。見過ごしそうな狭い頂上には小さな祠があり、中に天神様が祀られている。ここで大休止、昼食となった。いつものように、お湯を沸かし、紅茶を入れるが、本日のメンバーは誰一人アルコールの持参が無く、原点に帰ったような寂しいランチタイムとなってしまった。

30分の盛り上がらない休憩後、10分で稚児落としに到着、一枚岩の断崖絶壁の上を抜けて行く。その後は単調な下り30分で車道に到着。舗装道路を大月駅へ向かった。

予定より早い13時13分の各駅停車に乗り、相模湖駅で途中下車し、いつもの「かどや」で雨が降らないにも拘わらず欠席した若林氏と合流し、5人で打上げをした。いつもの酒豪が不在の為、泥酔もせず、乗り過ごす事無く、皆無事に帰って行った。